

JISP及びパートナー団体であるIsraAIDは、4月24日～26日の3日間、熊本地震の現状と今後の支援ニーズを把握するため、24日は、東京医科歯科大学の看護師と共に、また25・26日はTOMODACHIイニシアチブの大学生5名と共に、益城町、御船町内の指定避難所、未指定避難所(教会)等を回り、現状のヒアリングと子ども向けの簡単なワークショップを行ってまいりました。

避難所にてワークショップを実施

活動の初日は、熊本市内で避難所となっている教会で、メンバーによるギター演奏やカードを使ったワークを、大人・子どもあわせ約30名の方と共にを行った。午後は、約370名の方が避難されている益城町立広安小学校を訪問。(車中泊者数は約200名)このエリアはまだ断水が続いていたが、体育館に物資が貯蓄されており、近隣住民がボランティアを行っていた。夕方からは、教会で看護師と家族向けのカウンセリングを実施。さらに西原中学校では、マニュアル等がないなか、ゼロから避難所を構築した教育委員会の方のお話を伺うことができた。この避難所では、475名の避難者に対して、炊き出しやお風呂を自衛隊が用意していた。



▲ワークを通し、子どもたちの笑顔に触れることができた。

大学生と共に被災家屋を片付ける

活動2日目は、TOMODACHIイニシアチブの大学生5名と合流。午前中は避難所となっている益城町立広安小学校を訪問し、被災者の心のケアなどのニーズ調査を行った。前夜、一人暮らしのおばあさんから家の片付け依頼が入ったため、改めて様子をお伺いし、午後から、益城町南部地域にて片付けを開始。キッチンや倉庫など被害の多かった部屋の建具や生活用品をすべて撤去し、所定の廃棄物処理場所まで搬出を行った。その後、周辺を巡回し、合計4軒のがれき撤去や片付けを行った。夕方には、前日に訪問した益城町立広安小学校を再度訪問し、大学生5名を空いている教室に泊めていただいた。



▲活動したエリアには、赤紙(住めない、全壊)が貼られている家も多かった。

支援の必要なお宅を1軒ずつ確認

活動3日目は、午前中、御船町古閑迫地区の会長と共に、被災現場に入り、支援の必要なお宅を1軒ずつ確認。合計2軒が支援を必要としており、キッチンやダイニング等の片づけを行った。午後は、御船町立七滝中央小学校にて足湯サービスを行っている福島大学のメンバーと合流し、一部の大学生がサポートに入った。同時に、支援物資を届けた団体の搬出作業を手伝った。夕方からは、前日に引き続き、益城町南部を巡回し、片付けの必要なお宅を探し、2軒の室内、および周辺のがれき撤去作業を実施した。



▲2日間で計8軒の家の片付けを手伝うことができた。

熊本支援活動への寄付をお考えの方は、下記の口座までお振込をお願いします

ゆうちょ銀行から

記号 18100 番号 6992821

ゆうちょ銀行以外の銀行から

普通預金 店番号 818 口座番号 0699282

※お振込みいただいた後、下記のお問い合わせ電話番号にご連絡いただけますようお願い致します。